

## ■地区復興まちづくり計画（素案）内覧会等の報告

### （1）内覧会の概況

- ・日 時：1月21日～24日
- ・場 所：愛宕小学校仮設住宅談話室
- ・来場者数：26名

### ●会場の様子



### （2）内覧会での意見等

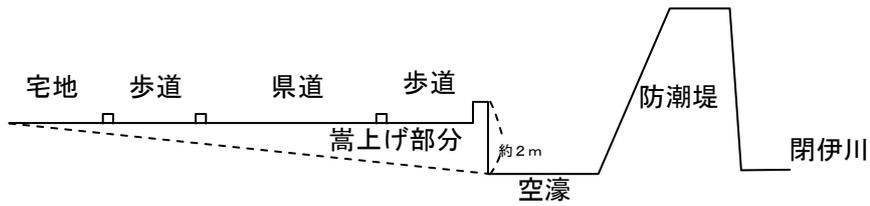
#### ■内覧会での意見

1	素案では、もとの位置に建てられるという計画で安心した。でも資金がないので、土地を買い上げてもらって公営住宅に入りたい。早く公営住宅を造ってほしい。（女性 内覧会）
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・津波シミュレーションは確実か？結果を評価する団体等で検討すべき。</li> <li>・防潮堤、避難ビル等は結構だが、ハード面だけでなくソフト面が大切。今回の件でも、3月9日に起こった地震の際に、津波被害がなかったことから安心して逃げなかった人が多くいた。</li> <li>・商業、サービス、水産加工施設ゾーンなどは、土地の有効利用も兼ねて人工地盤を設け、高層のビルを置くなどしていくと復興まちづくりの目玉にもなるし、浄土ヶ浜とあわせて観光の目玉にもなるのではないかと。（男性 内覧会）</li> </ul>
3	<p>①この案は20世紀の計画のように見える。（また同じことをしている）過去の事実に基づいてシミュレーションをするだけではなく、21世紀の夢のある計画。どんな災害が来ても対応できるような計画をたてるべきである。</p> <p>②シミュレーションの結果、建物が建てられるようになって、実際に水門ができるまでは危険なのではないか。水門ができる前に、新築した家が災害にあったらどう保障してくれるのか。</p> <p>③とにかく早くすることが必要。（女性 内覧会）</p>
4	水門を早く造ってほしい。（女性 内覧会）

## ■ 第 3 回検討会への意見

1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高台移転について            実際に対象になる戸数移転を要望する戸数を明確にした上で場所を選ぶべき。必要以上の造成は工期がかかる上、お金の無駄使いになる。愛宕の住宅ゾーンは一人暮らし世帯などが公営住宅への入居を希望すれば、空きが出てくる場所もあると思う。</li> <li>・県による水門設置の計画について            閉伊川は水門設置と報道されたが、地盤が沈下しているので防潮堤の嵩上げをしないこととなれば、万一水門を超える津波が来た場合、被害が大きくなるのではないか。「商業サービスゾーン」部分と 45 号線は嵩上げすべきでは。</li> <li>・現東北電力と旧宮古警察署が津波避難ビルとして検討されているようだが、東北電力を防災ビルとして旧宮古警察署跡を宅地とした方が良いのでは。避難場所は避難所より手近な逃げ場と解釈しているが、距離は小さくても実際には傾斜が急。お年寄りや車いす利用者にとっては遠いと思う。光岸地、愛宕とも改善されているとは思えない。</li> <li>・愛宕小が公営住宅になった場合、避難所はどこにおくのか検討しておくべき。</li> <li>・この地域については住宅ゾーンの区画整理をして欲しい。特に愛宕小や山寄りの高い場所に高齢者や車いす利用者等のいる世帯に優先的に割り当てるとよいと思う。区画整理は時間がかかるようだが土地の造成や嵩上げにかかる時間を考えれば似たようなものではないか。</li> <li>・狭小な道路の行き止まりをなくすべき。逃げてくるのは住民だけとは限らない。</li> <li>・借地地権者に用地提供（国が自治体による買い上げ）への協力を要請すべき（市当局が）。</li> <li>・今回の津波では愛宕小に国道からまっすぐ入れる道路は交差点等に流失した屋根が入り被災後の救援車両が入りにくかった。国道 45 号から中里団地を通る道路、本照寺上から下る道路を拡幅すると良いのでは？</li> <li>・愛宕小の上手、道路わきの側溝にコップのおいてある沢水（？）があるが飲用かのか？飲用できなくとも愛宕小敷地内に井戸を掘って被災時トイレなどに利用できないか？小笠原サイダーの水が湧くのだから汲み上げは可能だと思う。その際、万一の場合のため手動ポンプも配置。</li> <li>・狭小通路については、光岸地、鉾ヶ崎の山際も改良すべきだと思う。(40 歳代 女性 便り)</li> </ul>
2	<p>県が閉伊川の水門を整備することを予定した。このことにより今迄 2 回検討会をやってきた事が無意味になってしまった。当初、10 月 3 日に行われた会では河川堤防の嵩上げと防潮水門の整備は選択になっており、どちらを選択しても高台移転、地盤の嵩上げ（B 案）は行われるということになっていた。しかし、行政は被害シミュレーションを甘く修正し危機感の全くないものを作ってしまった。初めの計画は被災者に配慮した心のこもった面も見られたが今は、微塵もない。これでは、今でも検討会を白紙に戻し、やり直さなくてはならなくなる。原点に戻って二つの事を実行しなければならない。</p> <p>1. 商業・サービスゾーンの土地は移転希望者に対し、土地の買取をしてもらいたい（移転先は地区にこだわらずにどこでもすすめるようにする。）</p> <p>◎精神的にこの場所に戻りたくない人（高台移転を考えている人）がいる。この人達は買取のお金を希望の灯として生活している今後の計画では二束三文で土地が買ったたかれてしまう。出来れば震災前の金額で買ってもらいたい。</p>

2. 商業・サービスゾーンに再び住みたい人のために地盤の嵩上げをしてもらいたい。



◎空濠を設け津波を留める。新しい計画では甘く修正しているために心配である。大きな地震が起きれば何が起こるかわからない。(停電、避難路の崩壊等)。今度のような津波が来ても少しでも時間がかせげるように手助けすることが大切である。光岸地の斜面を利用して造成すれば出来るはず。又、高台に避難する時に有効である。今、建っている建物(宮冷、巨人荘等)は取り囲むようにする。  
(検討会メンバー)